

行仙宿・笠捨山迄の倒木処理作業に参加して

◇平成26年10月18日(土) (記 更谷阿希子)

気持ちのよい秋晴れ。スーパー台風と言われた先日の台風19号後、山道を整えに奥駆道、行仙宿へ。山行にご一緒させていただくのは2度目で、初めての行仙宿から笠捨山。

今回は整備とお聞きしたので、作業の足手纏いにならぬ様になると思う。皆さん、銘々、背負子でチェンソーやノコギリを持ち、いつもの仲間から御供えに預かった新米や柿などを分担して行仙宿に運ぶ。8:45から登りはじめ、9:30には行仙宿についた。

行仙宿・行者堂で生熊さんの勤行で手を合わす。側壁に伊富喜秀明さん、佐藤貫道さん、前田勇一さんの写真が掲示されている。前田さんはこの南奥駆の再興に、亡くなる間際まで尽力された方だ。前田さんにあとを託されたことが今の新宮山彦ぐるーぷの形を作っている、とお聞きした。

ここで宿に残る作業組と笠捨山へ向かう組とに分かれる。

笠捨山へ向かうのは道中に倒木ありとの情報があった為だ。

私は笠捨組に加わり、約2時間、山頂を目指す。山頂から奥駆道の山並みが遠望でき、めったにないことだそうす。

山頂で30分お昼を取ったあと、帰りは葛川辻の方へ行く道へ。葛川辻手前から鉄塔順視路(旧通信道)を通り、2時間半かかって行仙宿へ戻った。

往復の道中、特に男性陣、道具で倒木など片付けながら進む。思ったよりひどくないとのことだったが、くずれ場、架け橋が不安定なところなどは慎重になる。戻ると、行仙組は皮を剥いだ大きな丸太を積む作業の真っ最中。あとで合流した方々も加

わっていた。

「それぞれが力に応じて、山でできることをしたらいい」と沖崎さん。山に行くといつも心に何かもろう。

16時、山小屋泊まりで作業される方々に別れを言って下山。